

# キャリア研究における 縦断調査と測定 ～海外誌3誌からみた傾向～

三保紀裕（京都先端科学大学）

1

## 概要

- Research Question的な疑問
- 収集データ
- 分析
- まとめ

2

## Research Question的な疑問

表1-4-1 海外雑誌3誌における論文数と縦断研究の数・比率

		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
<i>Journal of Vocational Behavior</i>	論文数	58	72	61	80	65
	縦断研究	16	13	21	17	17
	比率(%)	27.59	18.06	34.43	21.25	26.15
<i>Journal of Career Development</i>	論文数	23	22	20	22	21
	縦断研究	3	2	3	2	3
	比率(%)	13.04	9.09	15.00	9.09	14.29
<i>Journal of Career Assessment</i>	論文数	28	31	30	30	32
	縦断研究	1	1	3	1	4
	比率(%)	3.57	3.23	10.00	3.33	12.50

注: Journal of Vocational Behaviorは年に6回, その他の雑誌は年に4回刊行されている。

縦断研究の割合は全体の2割程度だった

3

## Research Question的な疑問

- キャリア研究における重点は？（個人的意見）
  - 「発達」「移行」
  - 環境移行に伴う適応・要因は何か？
  - キャリア関連行動・職業的アイデンティティの発達
  - 環境移行をどう支援するか？その効果は？
  - それらをどう測定するか？

縦断的視点は不可欠だが、研究の数は…？

4

## 少なくとも、日本では少ない印象

- 縦断研究の実施状況，測定方法論の現状は？
  - 海外の傾向は？
  - 海外誌3誌の傾向から，研究のトレンドを再確認
    - Journal of Vocational Behavior
    - Journal of Career Development
    - Journal of Career Assessment

5

## データ収集（分析対象）

- キャリア関連の海外誌3誌（2020年分は途中まで）
  - Journal of Vocational Behavior（年6回刊行）
    - 2014-2020（刊行論文数：652）
  - Journal of Career Development（年4回刊行）
    - 2014-2020（刊行論文数：263）
  - Journal of Career Assessment（年4回刊行）
    - 2014-2020（刊行論文数：303）

6

## 分析の焦点

- 3つの点に注目
  1. 縦断研究の数は？
  2. 分析方法論としてSEMを活用している研究は？
  3. 縦断研究でSEMを活用している研究は？

論文内容から判断し，数をカウント

7

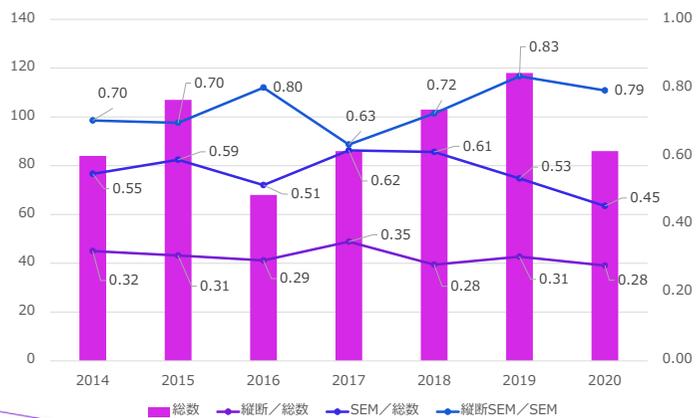
## 結果（3誌全体）



上の数値は全体に対する%を示す

8

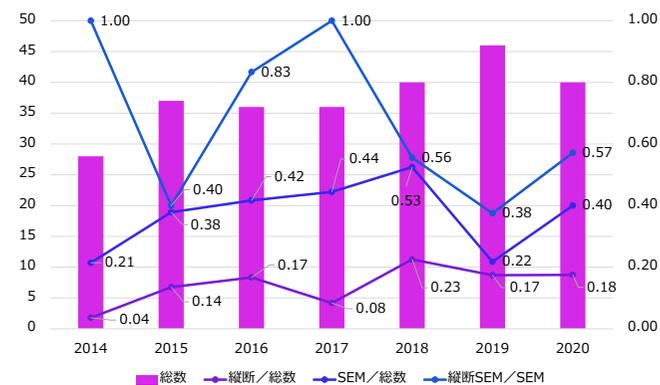
## 結果 (Journal of Vocational Behavior)



上の数値は全体に対する%を示す

9

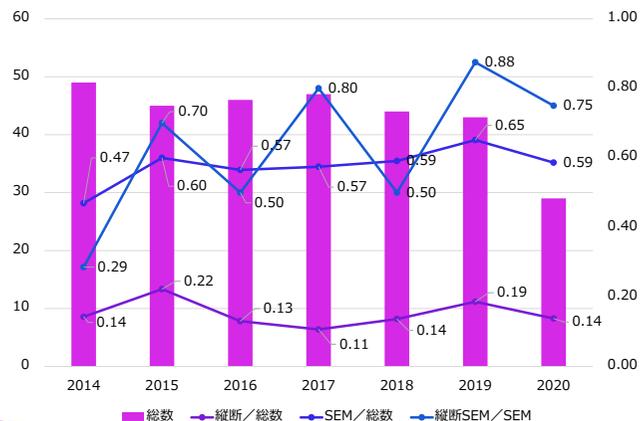
## 結果 (Journal of Career Development)



上の数値は全体に対する%を示す

10

## 結果 (Journal of Career Assessment)



上の数値は全体に対する%を示す

11

## 考察

- 縦断研究の現状
  - 論文誌にもよるが、実施率は2~3割程度を維持
  - **縦断研究におけるSEMの使用割合は7割越え**
    - 日本では数が少ない点でもある
- SEMの適用割合
  - 掲載論文の5~6割で適用されている状況
  - 世界基準でみると、SEMは一般的

縦断研究は手間とコストがかかる

分析方法論としてのスタンダードはSEM

日本は遅れている？

12

## その他雑感

- 分析結果の掲載情報について
  - 記述統計として平均・SD・相関の掲載はほぼ100%
  - CFAレベルは適合度の掲載までにとどまるものも多い
- 国際比較研究の少なさ
  - 3国以上の比較研究は非常に少ない
  - 研究の主流はCareer Construction Theory?

13

## まとめにかえて（個人的雑感）

- 日本のキャリア研究…
  - 縦断研究を行う基盤ができていない？
  - 方法論についても十分ではない？
  - 学校と企業間の深すぎる溝
  - 学校部分にフォーカスされすぎ…？

体系的かつ幅広い視点が必要…？

14